

5-1 製造業のリードタイム短縮と物流の関係

POINT

- ・ 物流の対応が悪いと納期遅れにつながる
- ・ 自家物流は便利だが意外と高くついている

製造業と物流

納期とは、製品の納入期日である。納期を決定する最後のカギは物流である。物流で問題になるのは品質トラブルや交通状況の把握である。輸送中に製品が壊れたり傷ついたりすると代替品をつくり直して納入しなければならなくなる。ピッキングミスがあった場合も特急便を1車仕立てなければならなくなる。つまり物流においてもQ(品質)、C(コスト)、D(納期)のバランスが重要である。本章では、製造業のL/T(リードタイム)短縮に資するため、QCDのバランスが取れた物流合理化に関する情報・手法を紹介する。

物流のQCD

物流のQCDが製造業にどのような影響を及ぼすのか、順番に見てみたい(図1)。

1. 物流の品質(Q)

物流の品質のポイントは以下の3つである。

ポイント1：製品品質の維持

混載便の積み降ろし作業は、取り扱いが荒くなる場合がある。またトラックの構造上、積載重量が少ないと荷物が暴れやすい。特に荷台の最後部は要注意で、前寄り(前後輪の間)に置くとよい。この点、エアサス(エアサスペンション)車は道路の衝撃を吸収するため、荷崩れが明らかに少なくなる。冷蔵品では温度管理も物流の品質に該当する。

ポイント2：正確性の確保

多種多数の製品のピッキングでは間違いが起こりやすい。こういう場合は、デジタルピッキング装置の採用を検討・推進する必要がある。

ポイント3：運転手の顧客対応

問題を起こす運転手は、クレーム対応などの基本を知らないことが多い。手順書をつくり、場合によっては訓練を行うことにより品質を確保する必要がある。

以上のような物流品質に問題があると、納期遅れにつながりかねない。十分な配慮が必要である。

2. 物流コスト(C)

委託物流の場合、支払運賃だけで管理できることから、物流のコスト管理は比較的容易である。注意点としては、「安かろう、悪かろう」にならないことである。運送会社のコストは人件費、車両の償却費、燃料など変動費の3つで、原価がわかりやすい。支払運賃が安いことは良いことではあるが、物流品質が悪くないか、確かめておく必要がある。

物流コストで注意が必要なのは、自家物流である。特に固定費になっている人件費はコストカウントしにくい。また車両費も稼働率が低い場合、意外に高くついているので注意が必要だ(図2)。

3. 納品時間(D)

これは自家物流が有利。必要な時にすぐ出発でき、最短時間で納品できる。特に緊急時対応など、小回りが利く点では自家物流が最適である。

委託物流の場合、納品時間が最も自由に設定できるのは貸切車である。混載の場合は、原則として物流会社が設定する条件が優先されるので、荷主の都合通りには運んでもらえない。

以上の差が問題になるのは、緊急時であろう。一般的な納品ではあらかじめ計画的に納品時間を設定すればよく、路線便の利用で問題ないことが多い。

図1 物流QCDの管理ポイント

項目	着眼点	問題点と管理項目
Q: 品質	製品の品質の維持	混載便では荷物の傷みにくい梱包を心がける 荷台の前寄りには荷崩れしにくい 急発進、急ハンドル、急ブレーキ防止の徹底
	正確なピッキング(荷揃い)	ピッキングミスをなくす。バーコードなどのデジタル装置の活用
	顧客対応	マニュアルなど、基本事項の徹底
C: コスト	妥当な運賃(外注の場合)	物流の内製化検討。外注の場合は定期的な3社見積もり
	自家物流の実コスト	人件費、車両維持費の明確化
D: 納品時間	緊急対応、臨時便	ムリはコストに跳ね返ってくるので、客先とのルールを明確化
	定期便、路線便	既定のサービス以上の小回りは利かないので効果的な活用が必要

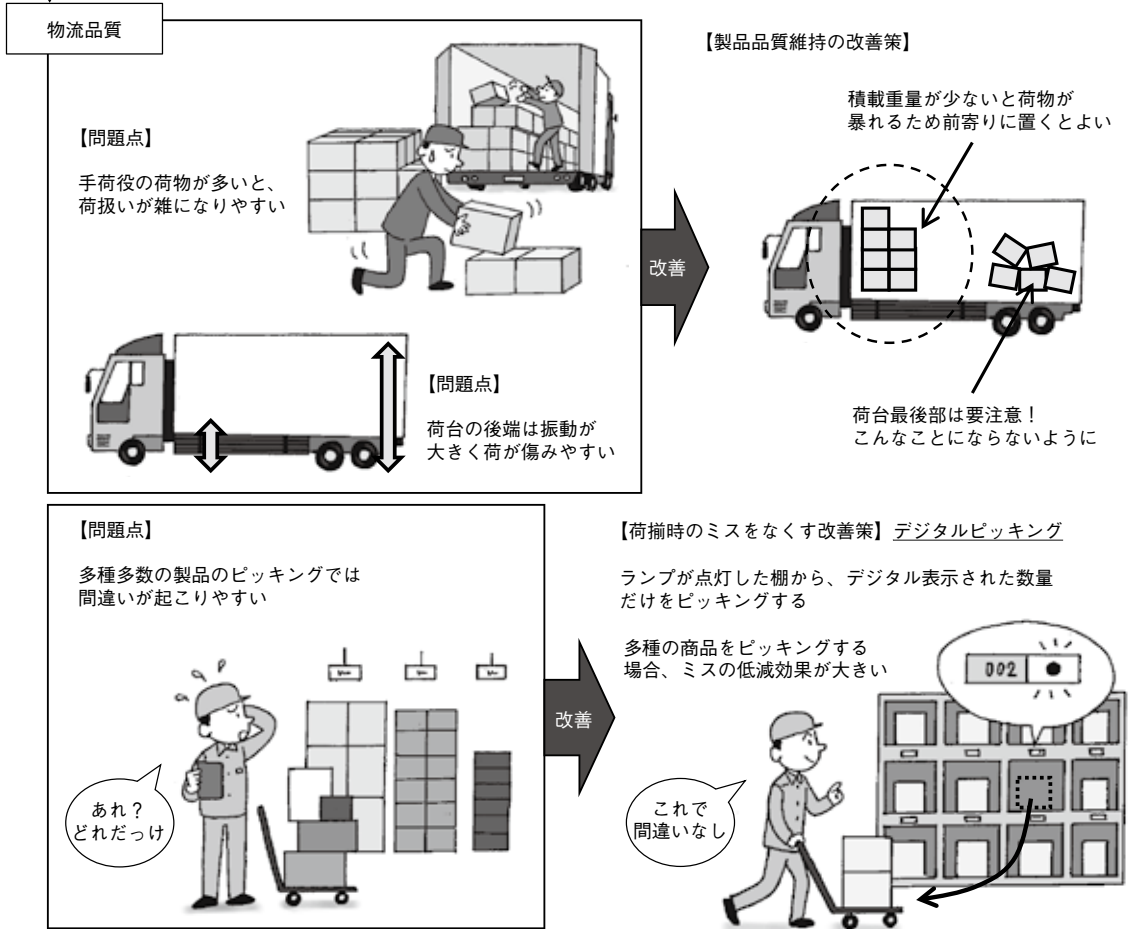


図2 意外に高い自家物流コスト

